

東京外国語大学附属図書館 利用サービスへようこそ

希望するサービスを選択してください。

図書館購入依頼  
図書館購入依頼

ILL文献複写・図書貸借申込  
ILL文献複写・図書貸借申込

Online Service

OPAC オンラインサービスで資料収集!

## 目次

■ 館長巻頭言「〈マイ図書館〉のすすめ—新入生、あるいは留学する皆さんに—」	2
■ 寄稿「「トマト」の台湾語」	3
■ 寄稿「ドナルド=キーンさんの親友」	5
■ [特集] オンラインで資料収集 「OPACオンラインサービスで資料収集がもっと早く、簡単に!!」	6
■ 附属図書館講演会報告(平成20年度)「源氏物語、若紫かいま見場面の変容」	10
■ 貴重書展示会報告(平成20年度) 「南アジア研究の足跡—本学におけるウルドゥー語・ヒンディー語教育の100年—」	11
■ 図書館統計(平成20年1月～平成20年12月)	14
■ 図書館活動日誌(平成20年4月～平成21年3月)	16
■ 編集後記	16

# 〈マイ図書館〉のすすめ

— 新入生、あるいは留学する皆さんに —

附属図書館長 谷川 道子

きっと誰にも、忘れがたい図書館や、〈マイ図書館〉というのがあるのだろう。

私にもそういう図書館がいくつかあるけれど、ドイツの図書館というとまず懐かしく思い出されるのが、マールバッハの国立図書館、別名シラー・アルヒーフ<sup>\*1</sup>だ。もう30数年も前のこと。「ドイツ文学研究者」になったらまず訪れる所とずっと聞かされていたので、「大学の先生」になった最初の夏休みのドイツ滞在の折りだった。

シラー生誕の町として有名な、ドイツ西南部のライン河支流ネッカー川沿いのマールバッハ (Marbach am Neckar) は、木組みの家々が今も残る素朴な町。駅から赤い実のついた林檎畑と葡萄畑にはさまれた小川にそってドイツの絵本から切り取ったようなのどかな田舎道を登っていくと、小高い丘の上にモダンな建物が急に現れてくる。シラー国立博物館 (Schiller-National-Museum) で、ドイツ有数の図書館かつ文学資料館でもある。さまざまな研究プロジェクトも盛んに行われていて、質量ともに優れたその成果が、多く刊行されてもいる。

今のようにネットで検索し予約するという時代でなく、日本から手紙は出してあったものの、簡単な手続きと自己紹介をただけの氏素性も定かでない身に、親切な館員がまず大きな館内を案内してくれ、私の専門分野にふさわしい階の一角に Stammtisch、つまり私専用の机とコーナーをくれて、帰り際に頼んでおくと、翌日にはその机の上にその文献や資料が、場合によってはそのコピーまで置かれている。何を聞いても答え・応えてくれる司書さんは博学で、よろずの相談に乗ってくれる。あいにく付設のゲストハウスが満員だったので、近くの民宿を紹介してもらった。私の滞在は夏休みの2週間ほどだったが、ドイツだけでなく世界中から若い研究者が、博士論文や教授資格論文を書くために、たくさんこの地と図書館を訪れて長期滞在しているのだ。だから図書館のレストラ

ンやカフェ、宿泊先ではそういう人たちと知り合いになり、情報交換や議論に花が咲く。シラー記念祭の歴史について教授資格論文を執筆中というある大学の助手の方とも知己になったが、何年か後にその立派な本が送・贈られてきてびっくりしたものだ。あるいは夜や月曜は休みだから、シラーの足跡を尋ねたり、何人かでシュトゥットガルトまで芝居を観に行ったり…こんな時空があるのかと、ドイツの図書館初体験の私はもう大感動!!!

フリードリヒ・フォン・シラー (1759-1805) は、おそらくはドイツでもっとも愛されている作家で、ゲーテよりも人気者なのだ。2005年は没後200年だったが (我が外語祭のドイツ語劇も『ウィリアム・テル』[文庫/13/410-3]に挑戦!)、2009年の今年は生誕250年にあたる。「シラーの町マールバッハ」はいま、それこそ町をあげて、その準備に取り組んでいるところだろう。

とはいえ、このマールバッハ図書館は18-19世紀の資料が中心で、ドイツ現代演劇が専門の身には劇場や交通の便も悪く、実はそれ以後はあまり訪れてはいない。〈マイ図書館〉はやはり、一番頻繁に訪れるベルリン<sup>\*2</sup>と、客員教授として2年余をすごしたウィーン<sup>\*3</sup>の大学図書館だろう。ともにドイツ語圏では規模と実績で1, 2を争う演劇科があり (ウィーン大学の演劇科などは宮殿の一隅にあるのです!)、その研究室図書館には、専門書や雑誌、最新情報、オーディオヴィジュアルな資料まで揃っていて、滞在中は、まさに選り取り見取りの「マイ書斎」だ。

他にも、たとえばベルリンなら、芸術アカデミー (Akademie der Künste)<sup>\*4</sup>には (これは旧東西ベルリンにあったのだが、旧西ベルリンのそれはティーアガルテンの森に位置する格好の散歩コース!)、演劇のメトロポールを謳歌した1920年代の貴重な資料が私的な日記や手紙、新聞雑誌にいたるまで揃っていて、よく日参した。また、あのヴィム・ヴェンダースの

1987年の名画『ベルリン・天使の詩』(Der Himmel über Berlin)の冒頭にも登場する「ベルリン国立図書館」(Staatsbibliothek zu Berlin)<sup>※5</sup>—天使たちの耳でそこで本を読んでいる人たちの「内語」が聞こえてくるあのシーンは印象的だったが、西ベルリンのそれは戦後に建てられ、ベルリン・フィルや国立美術館などもある「上野の森」のようなベルリンの中心ポツダム広場にある。その膨大な蔵書とともに、カフェからの見晴らしも素晴らしく、周辺の散策とともにお勧めだ。さらには、それぞれの劇場にも専用の資料室があるから、私などはプレヒト文庫やベルリーナー・アンサンブルの資料室に入り浸っては、よくお世話になったもの。

ドイツでは学芸や文献に対する尊敬の念が今なお古典的に生き続けているような気がするが、図書館の充実ぶりはその証の一つなのだろう。貴重な文化財ともいえる伝統をもった図書館の保存に力をいれているとともに、戦後から今もなお、単に蔵書数だけでなく、書誌学や文献学の優れた人材を備え、徹底した資料の収集、その機能的運用から、建物の美的構造に至るまで、どの点をとっても世界に誇りうる図書館を新設し、造営してきたからでもある。映画『薔薇の名前』の舞台になった中世修道院の撮影に使われたのは、ドイツ・エーバーバッハの修道院だったというが、そういう手書きの蔵書も並ぶような修道院/図書館もまだ随所に残っているし、戦禍にあったドイツでは、とくに東西ドイツで文化的に競い合っ

のヨーロッパ諸国、いや世界中でも同様だろうが、新旧さまざまなそういった図書館を訪ねる旅も楽しい。

ともあれ、留学や遊学の際には、そういった図書館を、まずは臆せずひるまず訪ねてみてほしい。大学図書館では、留学目的の専門領域の学科だけでなく、「外国語」に疲れたら、疲れなくても、日本(語)学科を訪ねてみるのもいい。日本の新聞雑誌に、日本についての双方からのまさにインタラクティブな書籍や資料があって、また逆の視点から日本が見えてくるし、日本(語)を知りたい熱心な学生さんたちと「お友だち」になるのもお勧めだ。その他、気楽に歩いて訪ね・尋ねられる地元の図書館も便利で、私は旅行中はもっぱら新聞雑誌はそういうところで読むし、お目当ての本が見つからなかったら、他の図書館から書籍・資料の相互貸借もしてくれる。そういうところの係りの人と仲良くなるのも、言葉と文化の習得には、何より!

その前に、まずは、70万冊の蔵書と、よそに負けない見識と人柄での情報サービスを誇る本学図書館を使いこなして、あなたの〈マイ図書館〉にし、そこから日本に、そして世界に〈マイ図書館〉をつくりつつ経めぐる旅へ、おいおい羽ばたいていってください!! いざ出帆!

【注】本文中〔 〕内は当館所蔵図書の請求記号

※1 <http://www.dla-marbach.de/>

※2 <http://www.hu-berlin.de/> (ベルリン大学)

※3 <http://www.univie.ac.at/> (ウィーン大学)

※4 <http://www.adk.de/>

※5 <http://staatsbibliothek-berlin.de/>

## 寄稿

## 「トマト」の台湾語

本学外国語学部教授 樋口 靖

中国語においても外来の事物を表すのに、自身のなかに適当な言葉が見当たらない時には、なにか新しい言葉を作ってそれを指示しようとした。外来のものに比較的似たものがすでに当地に存在する場合は、その言葉の前に「胡、番、洋、西」のような字様を加えて新しい言葉を作るやり方がしばしば行われた。このような方式によってできた新語を羅常培は「描写詞 descriptive form」と呼んだ(『語言與文化』1950、北京[B/a04/98])。

このうち、「胡」の着く「胡葱、胡椒、胡麻、胡瓜、胡蘿蔔」等々はインド、中央アジア起源の作物

に由来する比較的古い言葉であるが、「番、洋、西」を冠した作物は中国がポルトガル、スペイン、オランダ、英国などと頻繁に往来するようになってから招来されたもののようで、代表的な例に「番薯、洋葱(タマネギ)、西谷米(サゴ椰子から採るデンプン、いわゆるタピオカ)」などがある。これらは羅常培に倣えば「近代」描写詞と呼ぶことができよう。

中国語におけるトマトは奇しくもこの3つの形式が併用されている。すなわち、「番茄、洋柿子、西紅柿」である。なかでも「番茄」は広く行われ、華中・華南での言い方はおおむねこれである(『現代漢語方言大

詞典』2002 [B/a8/146/1～42])。いつ頃から使われるようになったのかはこれを詳らかにしないが、かの有名な Lobscheid の『英華字典』(1866-1868) [B/a3/468/1～2] によれば官話、広東語ともにこれを「番茄」と言っていたことが知られる(広東語 fan khe)。日本でも「番茄」(ハンカ)という言葉は江戸初期には中国から伝わっていたらしく、この言葉の起源はなかなか古いものようである。

閩南語にも「番茄」(hoan-kio) はあるもののこの呼び方は全然一般的ではなく、官話の文字遣いを閩南語の読み方でそのまま読んだものに過ぎない。

現在の福建南部地方ではおもに「臭柿仔 chhau-khi-a」あるいは「柑仔蜜 kam-a-bit」のように言う。現代廈門方言では「柑仔得 kam-a-tit」のように言っているが、これは「柑仔蜜 kam-a-bit」からの訛音に違いない。

「臭柿仔」はトマトの葉が独特の臭いを発するところから来ているのであろうが、「柑仔蜜」についてはいさか問題がある。C. Douglas の『厦英大辞典』(1873) [B/a8/515104/4] では、トマトに当たる単語はまだ収録されておらず、kam-a-bit は見出せるものの、a substance chewed with areca and siri との説明があるのみで、この言葉はトマトを意味するものではなかった。そのおよそ10年後に現れた J.J.C. Francken と C.F.M. de Grijns の『厦荷辞典』(1882) においてもトマトは未だ現れず、kam-a-bit を zwart roode lijm op betelbladeren gesmeerd と説明している。下って昭和6年出版の『台日大辞典』[4.6/F4/Ta25/1～2] になると、トマトはさすがに「臭柿仔」の形で採られている(但し、新語としている)ものの、「柑仔蜜」にトマトの語解はなく、依然として「阿仙藥またはガンビル」の意味であるとし、「檳榔に混せて咀嚼用に供する」などと注記している。但し、T. Barclay 編「C. Douglas『厦英大辞典』への Supplement (1923)」[B/a8/515104/4] を見ると「柑仔蜜」も「臭柿仔」もトマトとして出ており、これがこの二つの語が閩南語でトマトとして現れる最も早期のものようである。

閩南語においてトマトを表す言葉は、さらに古くは別の言い方も存在していた。たとえば、J. Macgowan『英華口才集』(1880) には「紅柿 ang-khi」とあり、同じ著者の『英厦辞典』(1883) には「山柿 soa<sup>n</sup>-khi」とある。「山柿」は上の C. Douglas 編“Supplement”でも「山柿仔 soa<sup>n</sup>-khi-a」の形で出

ているので、実際に使われていた形式であろう。「紅柿 ang-khi」は普通は文字どおり「赤い柔らかい柿」を指す語であるから、『英厦口才集』の例はなんらかの混同もしくは誤解があった結果なのかもしれない。

『台日大辞典』を見ると「紅耳仔蜜 ang-hi-a-bit、紅耳仔唇 ang-hi-a-chhu」の二つの言い方が収録されている。これらはそれ以前の資料に見出すことのできない不思議な言葉である。ただし、語形から「紅柿」あるいは「柑仔蜜」とのなんらかの関連性を感じさせる。あるいは台湾語(台湾閩南語)の中で独自に発生した新形式であったのであろうか。

いずれにせよ、トマトを表すこのような形式はすべて滅びてしまい、福建でも台湾でも主として「臭柿仔」と「柑仔蜜(得)」だけが使われている。台湾語では「柑仔蜜」は南部で比較的良好に行われ、「臭柿仔」は北部で良好に行われている。しかし、台湾語では実際には thoo-ma-toh もしくは tha-ma-toh のようにいうことが多い(鍾露昇『閩南語在台湾分佈』1955-56。因みに福建閩南語ではこの形式はふつうは使われない)。これはもちろん日本領台時代に日本語の「トマト」から借用された外来形式である。但し、台湾においていつ頃からこの形式が使われるようになったのかは判然としない。

まず第一に日本で「トマト」という言い方が広く行われる以前にこれが台湾語に流入したということは考えにくい。トマトの語の日本語使用について筆者の知識は皆無に近いが、明治期の和英、和仏辞典などを見ても「アカナス」という項目の下にトマトが収められているようだ。国産ケチャップが製造発売されるようになってからこの言葉が広く使われるようになったとすれば(カゴメ株式会社のホームページ)、それは明治も30年代以降のことである。戦前の比較的早期の台湾語辞典でも「トマト」は現れず、だいたい「アカナス」となっている。『台日大辞典』(昭和6年)になってやっと「トマト」なる語が現れるのである。

次に、<sup>おびやだ</sup> 夥しく残されている戦前の台湾語資料の中に thoo-ma-toh や tha-ma-toh という台湾語はほとんど見出せない。『日台大辞典』(明治40年)[王文庫/J/74572] にはトマトに関する項目や記述がそもそも存在しない。そのほかの台湾語辞典や台湾語教材を<sup>しょうりょう</sup> 渉獵したとしても、これを見出すのは難しだろう。しかし、資料に見つからないからといって、thoo-ma-toh の台湾語が未だなかったということにはもちろんならない。さてどうするか、諸賢のお知恵を拝借したいところである。



たまにkhoo-ma-tohとかkam-ma-tohのような形式を耳にすることができる。前者はthoo-ma-tohの頭子音が交替した形式であり、後者はkam-a-bitとthoo-ma-tohの融合した語形であろう。台湾語が新しく独自に生み出した形式のひとつである。

台湾の言語文化は福建文化を基礎にもつ文化であることは言うまでもないが、一方で日本文化の大きな影響

下に形成されてきた。福建語そのままでもなく、日本語そのままでもない。独自の言語文化を形成するプロセスと力量を<sup>そな</sup>えており、これが台湾語の近代の辿ってきた過去であり、現在であり、また、未来への道でもある。

【注】文中書籍タイトル名の後の〔 〕内は、当館請求記号

## 寄稿

## ドナルド＝キーンさんの親友

留学生日本語教育センター教授 内海 孝

タクシーに乗っているときであった。

「探偵のようですね。」

日本文学者のキーン（Donald Keene）さんに久しぶりにお会いして、このようにいわれ驚いた。2007年7月21日のことである。

キーンさんの恩師である角田柳作（1877～1964）について研究していた関係で、わたくしはお会いする機会があった。

角田柳作は1931年、コロンビア大学に付置されたばかりの日本図書館の責任者をつとめ、日本学を講じはじめた。だが、弟子たちは角田が書いた著書もほとんど知らなかった。

素朴な疑問に調査をかさね、わたくしは角田柳作像を描いた。キーンさんが知らない恩師の姿であった。その徹底的な調査を評して、冒頭のひとことがあったと好意的に受けとめた。

「けがをしたのは頭でなく、足でよかったですね。」

キーンさんは1月から5月までニューヨークのコロンビア大学で教鞭をとり、その後、東京に戻り研究するのを常としていた。ところが、その年は7月にギブスを付けて戻ってきた。

ニューヨーク滞在中、キーンさんは夜の階段で誤って転び、足をけがしたからである。

「サイデンステッカーが不忍池で転倒し、頭を打って入院した。だが、意識がない。内緒だが、もう助からない。同じ時期に、ふたりとも転倒したよ」と、キーンさんは応じた。

サイデンステッカー（E. G. Seidensticker）は、川端康成の小説を翻訳したことでノーベル文学賞受賞に貢献し、1976年にいたり英語で『源氏物語』を全訳した日本文学者である。

キーンさんとサイデンステッカーは、第二次大戦直後のコロンビア大学でいっしょに、角田柳作から日本学を学び、深い影響をうけた弟子であった。

角田のことを聞くため、わたくしはサイデンステッカーにハワイで二度、お目にかかった。最初は1999年2月のことであった。三度目にお会いする約束をしたまま、果たしていなかったの、わたくしは絶句した。

その夏の8月26日、サイデンステッカーは亡くなった。86歳であった。

11月4日に上野の精養軒で追悼会がひらかれて、キーンさんは語った。真珠湾攻撃の翌42年の10月くらい、コロラド大学内のアメリカ海軍日本語学校でいっしょに日本語を学んだ仲であった。その後、日本文学をともに翻訳するようになって、たがいの得意な領域を生かしながら切磋琢磨してきた、と。

コロンビア大学で1977年、ふたりは同僚になった。秋学期はサンデンステッカー、春学期はキーンさん、一年の半期ずつに授業をもち、東京へ戻って日本学研究に没頭した。

ふたりの原点は1946年から翌年にかけて、角田柳作の日本学にあった。日本の古典文学や歴史についての日本語文献に接し、読み鍛えられ、その意味と価値を知り、魅了された。

2008年11月3日、キーンさんはその功績が認められ、外国人としては正式な最初の文化勲章受章者となった。

恩師の角田柳作はいうにおよばず、サイデンステッカーという良きライバルの親友があったからこそその受賞といえる。

\*本稿を、サンデンステッカーさんの霊に捧げたい。山口徹三さんに感謝する。

## 特 集

# OPACオンラインサービスで 資料収集がもっと早く、簡単に!!

## 附 属 図 書 館

前号でご紹介したOPACオンラインサービスに新しいメニューが追加され、より便利にお使いいただけるようになりました。今回は、[オンラインで資料収集]をキーワードに、ILLと図書購入依頼について詳しくご紹介します。

### 🌐 OPACオンラインサービスってなに？

OPACオンラインサービスは、インターネット上で、借りている資料の確認や延長、予約、そして今回ご紹介するILLや図書購入依頼などが可能なサービスです。

### 🌐 ワンクリックでオンラインサービス

OPACオンラインサービスをより身近に使っていただけるように、附属図書館ホームページ上にアイコンを新設しました。

24時間ご自宅からでもワンクリックでご利用可能です。

### 🌐 使い方に困ったら

ヘルプをご覧ください。メニューごとの詳しい操作をご案内しています。ヘルプで分からないことや、詳細が知りたいときには、オンラインサービスのAskサービスでご質問ください。

### 🌐 カード番号・パスワードがわからない場合は？

オンラインサービスには専用のカード番号とパスワードが必要です。

ご不明の場合は即時発行いたしますので、平日9:00-17:00の間にキャンパスカードをお持ちのうえ、附属図書館2Fカウンターでお申し込みください。

(新入生で総合科目「情報リテラシー」を受講する方は、初回講義において、総合情報コラボレーションセンターのアカウントとともに、本サービスのカード番号とパスワードが配布されます。)

#### ▼附属図書館ホームページ



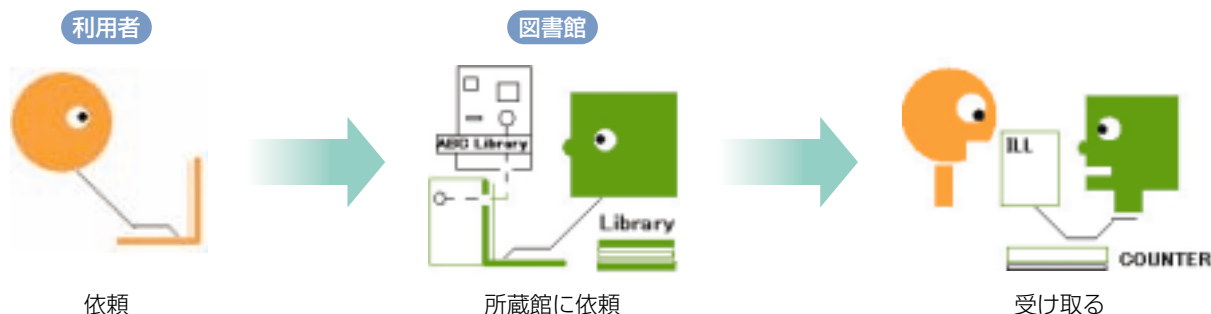
#### ▼オンラインサービス認証画面



## 🌐 ILLってなに？

ILL (Inter Library Loan) とは、附属図書館にない図書を、他の図書館から借りたり（図書貸借）、論文のコピーを取り寄せたり（文献複写）するサービスです。

※送料等、実費は申込者ご本人にご負担いただきます。



## 🌐 図書購入依頼ってなに？

図書購入依頼とは、附属図書館に置いてほしい図書をリクエストするサービスです。

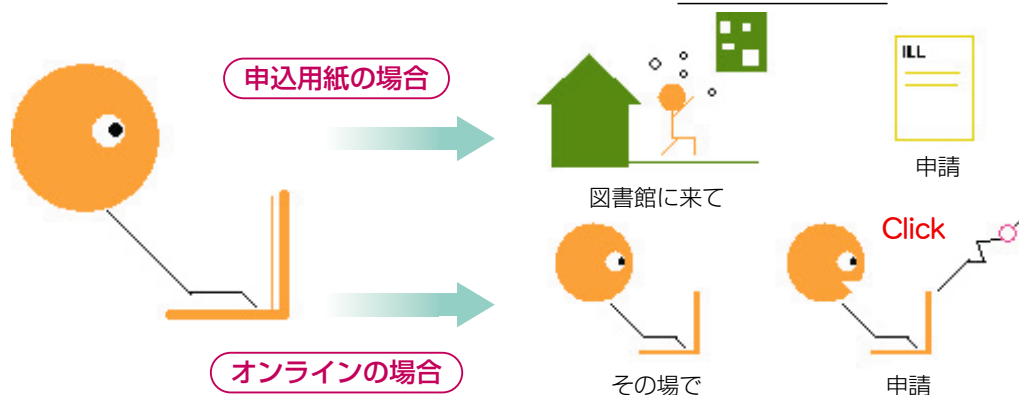
いただいたリクエストは、購入図書を選定する委員会（選書委員会）が採否を決定します。

※リクエストができるのは、本学の教育・研究に沿う内容の日本語図書（新聞・雑誌は除く）です。



## 🌐 オンラインだとこんなに便利！

ILL・図書購入依頼にオンラインサービスをご利用いただくと、より早く、簡単にご依頼いただけます。



※ILLは申込用紙での申請も可能です。



## ILL 依頼手順

1. ログイン後に[ILL 文献複写・図書貸借申込]メニューをクリック
2. 画面右上の[新規依頼]をクリック
3. 依頼画面の空欄部分を記入
4. [依頼を行う]をクリック
5. 完了

## ILL (文献複写・図書貸借) 一覧画面

## 依頼するときの確認事項

### ◆図書貸借or文献複写

文献複写は青い画面、図書貸借は緑の画面です。

### ◆書誌典拠

図書や雑誌を特定するために必要です。

[書誌]

依頼する図書や論文の情報のことです。

- ・何年に：年次
- ・どこが出版した：出版者
- ・誰が書いた：著者名
- ・どういうタイトル：書名

[典拠]

依頼する図書や論文情報の入手元です。

### ◆コメント欄

手元の情報が不完全な場合はコメント欄にその旨を記載してください。

## ILL (文献複写・図書貸借) 依頼画面



## \*ひと言コラム①：ご依頼前に

ご依頼の前に、附属図書館にご希望の資料がないか、必ずご確認ください。  
OPAC (<http://www-lib.tufts.ac.jp/opac/>) を使うと、オンラインで所蔵が確認できます。しかし、出版年が古い資料や英語の雑誌など、OPACでは検索できない資料もありますので、ご利用の際はご注意ください。  
検索方法の詳細は以下も参考にしてください。

- 図書館 HP メニュー 《資料を探す》
- 図書館 ガイダンス ページ 《過去の配布資料》



## 図書購入依頼手順

1. ログイン後に[図書購入依頼]メニューをクリック
2. 画面右上の[新規依頼]をクリック
3. 依頼画面の空欄部分を記入
4. [依頼を行う]をクリック
5. 完了

## 依頼するときの確認事項

- ◆書名、著者名・編者名、ISBN  
リクエストされた図書を特定するために必要な情報なので、正確に記入してください。
- ◆希望理由等  
選書委員会では希望理由が重要な検討材料となります。
- ◆リクエストは1冊につき1件ずつお申し込み下さい。

### ▼図書購入依頼 一覧画面

### ▼図書購入依頼 依頼画面

## \*ひと言コラム②：検索しながら依頼ができる！

オンラインサービスの便利な使い方として、ILLと図書購入依頼の「書誌取り込み機能」をご紹介します。

### 【手順】

- ①「書名」「著者名・編者名」「ISBN」のいずれかを入力。
- ② をクリック。
- ③ データがヒットしたら をクリック。
- ④ 自動的に必要な情報が入力されます！



※ご不明な点がございましたら、お気軽に附属図書館2Fカウンターまでお越しください。

# 源氏物語、若紫かいま見場面の変容

国文学研究資料館長 伊井 春樹

西暦1008年11月1日に、源氏物語が記録として『紫式部日記』に初めて現れてから、今年はちょうど千年目に当たります。千年の間、源氏物語は読み継がれてきました。源氏物語は、世界に誇るべき我が国の遺産であるとともに、世界有数の作品であると思います。

源氏物語は世界中で読まれてきました。アーサー・ウェイリーの翻訳によって源氏物語という存在は世界中に知られるようになり、現在20ヶ国語ほどの翻訳が出されています。

源氏物語は、全部で54巻から成り、400字詰原稿用紙に換算しますとおおよそ2,300枚あります。源氏物語の現物を手に入れて54巻を全部読むのは、難しいことだったろうと思います。当時は筆で写さざるを得ないわけですから。

その上、源氏物語は百年も経ちますと、難しく読めなくなってしまう。鎌倉時代の直前、おおよそ院政期頃には源氏物語の注釈が出るようになってきます。室町時代の末になると注釈の注釈が難しい上に、注釈書が膨大なものになって、背丈くらいなものも出現してしまう。院政期から江戸時代の末までに、私が調べた限りでおおよそ600種類の注釈書があります。玉栄という尼などは、注釈書の注釈が漢籍仏典を引いて難解だけに源氏物語が読めないほどだと嘆いてもおられます。

それゆえ源氏物語はかなり古くから粗筋が作られ、そのダイジェストで読まれていくことになります。そして同時に絵画化もされていきました。国宝源氏物語絵巻というのは、院政期平清盛の前後にできあがったものと言われています。この絵巻というのは、絵で見る梗概書でもあります。だから、文章で書く粗筋と一体になっています。一卷一図だとすると、当然粗筋がないと鑑賞できないわけです。

さて、光源氏は18歳の3月にわらわやみという病気になってしまいました。そのため加持祈祷をしてもらいに、北山の聖というお坊さんの許に出



かけていきます。そこで光源氏が覗き見をして、恋焦がれております藤壺にそっくりな十ばかりの女の子、若紫を発見するという場面があります。

この場面がどのように絵画化され変化をしていったのかを見ていくと、「若紫」の巻が雀と鳥籠に象徴化され、記号化していくわけです。鳥籠と雀で若紫ということになる。このように、絵というものが象徴化され、記号化していく。そうすると見ている人は鳥籠と雀によって若紫の巻をイメージする、というふうに変わっていくわけですね。

源氏物語において、粗筋が絵と一体化し、絵がだんだん一卷一場面というものに固定化してまいりますと、その一場面で象徴するものが、一層パターン化し強調されていきました。例えば若紫巻だと鳥籠と雀、空蟬巻では碁盤、浮舟巻では小舟などと、他の巻もすべて同様に象徴化され、記号化されていく。このように我々は、その絵を見ることによって源氏物語をイメージ化していく。「源氏読まずの源氏読み」と言われる、粗筋を知って巻毎の絵を見る、ということになるのだらうと思います。

# 南アジア研究の足跡

— 本学におけるウルドゥー語・ヒンディー語教育の100年 —

本学外国語学部准教授 麻田 豊

本学におけるウルドゥー語・ヒンディー語教育の100周年を記念して、昨年（2008年）12月12日～14日の3日間にわたり、本学で「ヒンディー語・ウルドゥー語教育国際シンポジウム」が開催され、インド、パキスタン、アメリカ、ドイツ、ポーランド、モーリシャス、それに日本から両言語の教育者が集った。

この100周年行事の一環として、11月17日から12月14日まで本学附属図書館所蔵の「ナワルクシヨール・コレクション」から厳選した19世紀半ばから20世紀初めにかけて出版された28点（ウルドゥー語16冊、ヒンディー語関係12冊）を含む貴重書展が附属図書館ギャラリーで開かれた。ここではウルドゥー語書籍6点の内容を、開催期間中に会場で配布されたパンフレットからの解説と興味深い画像とともに紹介したい。

## ●展示資料U-①

لؤلؤ فیض فینئی، داستان امیر حمزہ صاحبقران، لکھنؤ و لکھنؤ ۱۹۰۴-

Abūlfaiz Faizī, *Dāstān-i Amīr Ḥamzah sāhibqirān*,  
Lakhna'ū, Navalkishor, 1904-

طوطا رام شایان، طلسم شایان، معروف بہ داستان امیر حمزہ، مرتبہ ۵، لکھنؤ و لکھنؤ ۱۸۸۷

Tṭā Rām Shāyān, *Tyilism-i Shāyān, ma'rūf bah*  
*Dāstān-i Amīr Ḥamzah*, Martabah i 5, Lakhna'ū,  
Navalkishor, 1887



画像 1

『アミール・ハムザの物語』アブル・ファイズ・ファイズィー著。1904年からラクナウにて刊行開始。

原本はペルシャ語で、その著者ファイズィー（1547-1595）はムガル朝第3代皇帝アクバルの娯楽のためにこの物語を著した。弟のアブル・ファズルは歴史書『アクバル・ナーマ（アクバルの書）』の作者として著名。ウルドゥー語による「ダースターン（伝奇物語）」の白眉。主人公のアミール・ハムザは預言者ムハンマドのおじにあたる実在の人物。第1巻第1部の巻頭に全8書全17巻の目次が掲げられている。中でも第1書「ナウシェールワーン・ナーマ」2巻と第5書「ティリスメ・ホーシュルバー」7巻は現在でも広く読まれている。韻文訳にトーター・ラーム「シャーヤーン（当を得た）」による『当を得た魔法』（1887年刊、第5版）がある。また一昨年、ウルドゥー語から全文が英訳された。

The Adventures of Amir Hamza (Tr. by Musharraf Ali Farooqi, New York, Modern Library, 2007)  
挿絵が時代を感じさせて興味深い（画像1）

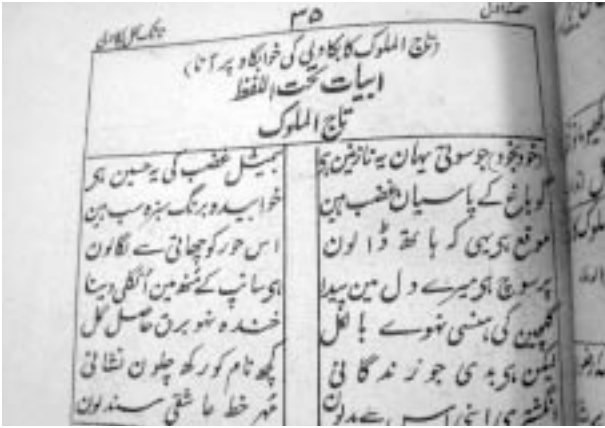
（請求記号：SARDA-NKU/929.933/176774,  
SARDA-NKU/929.851/177066）

## ●展示資料U-③

بخش الہی، ملک مت علی، معروف بہ گل بکلی، لکھنؤ و لکھنؤ ۱۸۹۳

Bakhsh Ilāhī, *Nāṭak Himmat-i ālī, ma'rūf bah Gulī*  
*bakāvalī*, Lakhna'ū, Navalkishor, 1893





画像2

『戯曲 グレ・バカーワリー：高邁な精神』バフシュ・イラーヒー “ナーミー (著名な)” 著。1893年ラクナウ刊。

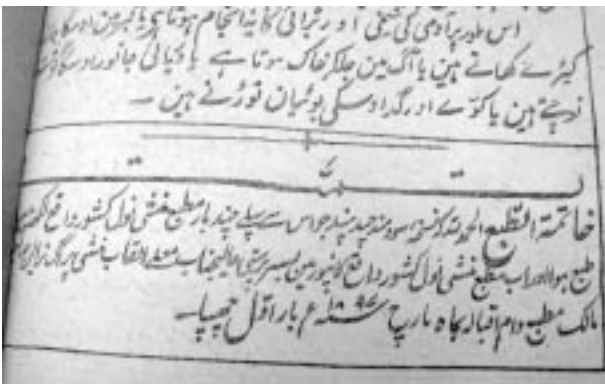
タージュル・ムルーク王子と妖精バカーワリーのインドを舞台にした冒険と愛の物語を戯曲化した作品の第1部。作者はビハール州パトナー市にあるフダー・バフシュ東洋公共図書館の創立者の息子バフシュ・イラーヒー。表紙には「エターワー市のインディアン・デイルパズィール劇団の依頼による」とある。最初のページには配役は男性28人、女性12人と指定されている。ト書きもあり、詩の形をとった台詞は歌う部分と朗誦部分とからなる(画像2)。この物語は古くは1625年のダキニー語(古ウルドゥー語)による作品があり、近代の作品では『愛の宗教』(ニハールチャンド作、散文、1803年)、『そよ風の園』(ダヤー・シャンカル “ナスィーム (朝のそよ風)” 作、韻文、1835年)がある。

(請求記号：SARDA-NKU/929.852/176766)

## ●展示資料U-⑤

محمد نواز احمد رسالہ چندی گڑھ نوکشی ۱۸۹۷

Muhammad Nazir Ahmad, *Risalah-yi cand pand*,  
Kānpur, Navalkishor, 1897



画像3

※最終行に「1897年3月」と読める。



画像4

※右ページ下にイスラーム暦1314年と書かれている。

『幾つかの忠言の書』ナズィール・アフマド著。1897年カーンブル刊。

ゴーラクプル県の副徴税官をつとめたことから、一般にはその役職名をつけたデピュティー・ナズィール・アフマドの名で知られる。『花嫁の鏡』『ナスーの後悔』などの小説の作者。この作品は「自分の息子に文字の読み書きを教えた後に読み聞かせるために書き上げた」(表紙の記述)もので、一般読者に供するために、「これまでラクナウのナワルキショール・プレスで版を重ねてきたが、今回はカーンブルのナワルキショール・プレスから初めて1897年3月に刊行」(奥付の記述)した(画像3)。表紙裏には刊行年表示詩が掲載され、イスラーム暦1314年(西暦1897年)と、書かれている(画像4)。

(請求記号：SARDA-NKU/372.253/176573)

## ●展示資料U-⑧

سید محمد خان رند گلستاہ عشق، معروف بہ دیوان رند نوکشی

Sayyid Muhammad Khān Rind, *Guldastah-yi Ishq*,  
*ma'rūf bah Dīvān-i Rind*, [S.L.], Navalkishor



画像5

『愛の花束：リンド詩集』サイヤド・ムハンマド・ハーン“リンド”。刊行年、出版地不詳。

リンド（放蕩の意の雅号。1797-1857年）はナワブ・スィラージュッダウラ・ギヤース・ムハンマド・ハーンの息子として1797年にファイザーバードに生まれる。アワド王国の支配者家系と姻戚関係があった。ラクナウ詩派のアーティシュ（火の意の雅号。1846年没）の弟子となった。宮廷で雅号の意味どおりの放蕩生活を送っていたが、師匠の死後は飲酒を絶ち、信心深くなりマッカへの巡礼に出発したが、インド大反乱直前に旅の途中のボンベイで没した。第1ガザル詩集は1834年に自ら編み、第2詩集は死後に編まれた。余白にも詩がぎっしり書きこまれており、デザイン的にも注目される。ギャルサン・ド・タッシーの文学史（Garcin de Tassy, *Histoire de la littérature hindoue et hindoustanie*, 2e ed. t. 1-3., Paris: Adolphe Labitte, 1870-1871）には、「イスラーム暦1262年（1845-1846年）にカーンプルで206ページで石版印刷され、余白はテキストで満たされている」と書かれている（画像5）。

（請求記号：HUB/I1/595848）

## ●展示資料U-⑫

خواجہ محمد اکرام الدین، تفسیر اردو سورہ فاتحہ، مرتبہ ۵، کلکتہ، ۱۸۸۷

*Khvājah Muḥammad Ikramuddīn, Tafsīr-i Urdū-yi Sūrah-yi Fātiḥah, Martabah-i 5, Kānpur, Navalkishor, 1887*



画像7



画像6

『クルアーン開扉章のウルドゥー語による注解』ハージャ・ムハンマド・イクラームッディーン著。1887年第5版カーンプル刊。

クルアーン（コーラン）第1章の「開扉」は「慈悲ふかく慈愛あまねきアッラーの御名において」のバスマラのあと、短い全7節からなる。内容は、第1節「讃えあれ、アッラー、万世の主」で始まり、次に神を最後の審判の日の主宰者として讃え、崇め、神からの救いを求め、最後に迷うことなく正しい道に導かれることを請い願う。繰り返し唱えるべき祈禱句として、ムスリムの日常生活において重要な役割を果たしている。本書はこの7節の内容を注解している。

各ページの中央の本文枠の外には注が施されている（画像6）。また、ウルドゥー語はナスターリーク書体で、アラビア語からの引用句はナスフ書体で書かれている。表紙はナワルキショール本に典型的な華美な草花模様である（画像7）。

（請求記号：SARDA-NKU/167.3/176430）

## ●展示資料U-⑬

سری رام ماتھورداس، سری رام کرت ماہراجت، کلکتہ، ۱۹۴۴

*Srī Rām Māthur Dīhlavī, Srī Rām kṛit Mahābhārat, Lakhna'ū, Navalkishor, [1944]*



画像8

『マハーバーラタ』シュリーラーム・マートウル・デヘラヴィー。1944年ラクナウ刊。

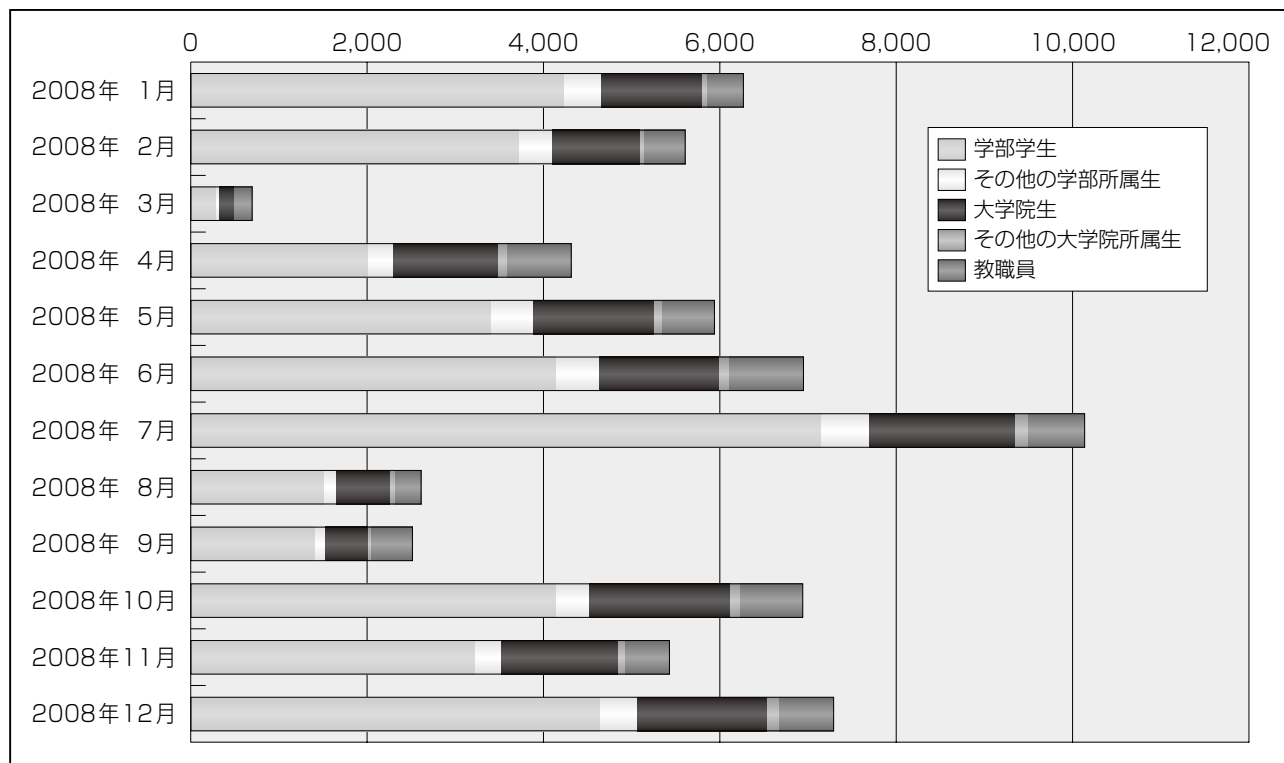
ラーマヤナと並ぶヒンドゥー教の大叙事詩マハーバーラタのウルドゥー語訳。5巻を1冊にまとめている。登場人物一人ひとりがイスラームの伝統的な「系統樹」（シャジャラ）に書き込まれているのが珍しい（画像8）。マハーバーラタのウルドゥー語訳としては、トーター・ラーム“シャーヤーン（当を得た）”（1880年没）がペルシャ語抄訳とサンスクリット原典をもとにした韻文訳が名高い。

（請求記号：SARDA-NKU/929.881/157130）

【注】本貴重書展のパンフレットが以下のURLでご覧になれます。なお、本文の「展示資料」と表記されている後の記号がパンフレットの記号と対応しています。ご参照ください。  
<http://www.tufs.ac.jp/common/library/guide/shokai/tenji9.pdf>

# 図書館統計

## 貸出冊数統計



### 貸出冊数統計

[期間：2008年1月～2008年12月]

	2008年1月	2008年2月	2008年3月	2008年4月	2008年5月	2008年6月
学 部 学 生	4,222	3,719	279	2,008	3,411	4,132
その他の学部所属生※1	424	371	39	278	466	491
大 学 院 生	1,143	994	162	1,193	1,368	1,363
その他の大学院所属生※2	59	51	0	87	86	115
教 職 員	419	472	219	750	608	847
合 計	6,267	5,607	699	4,316	5,939	6,948

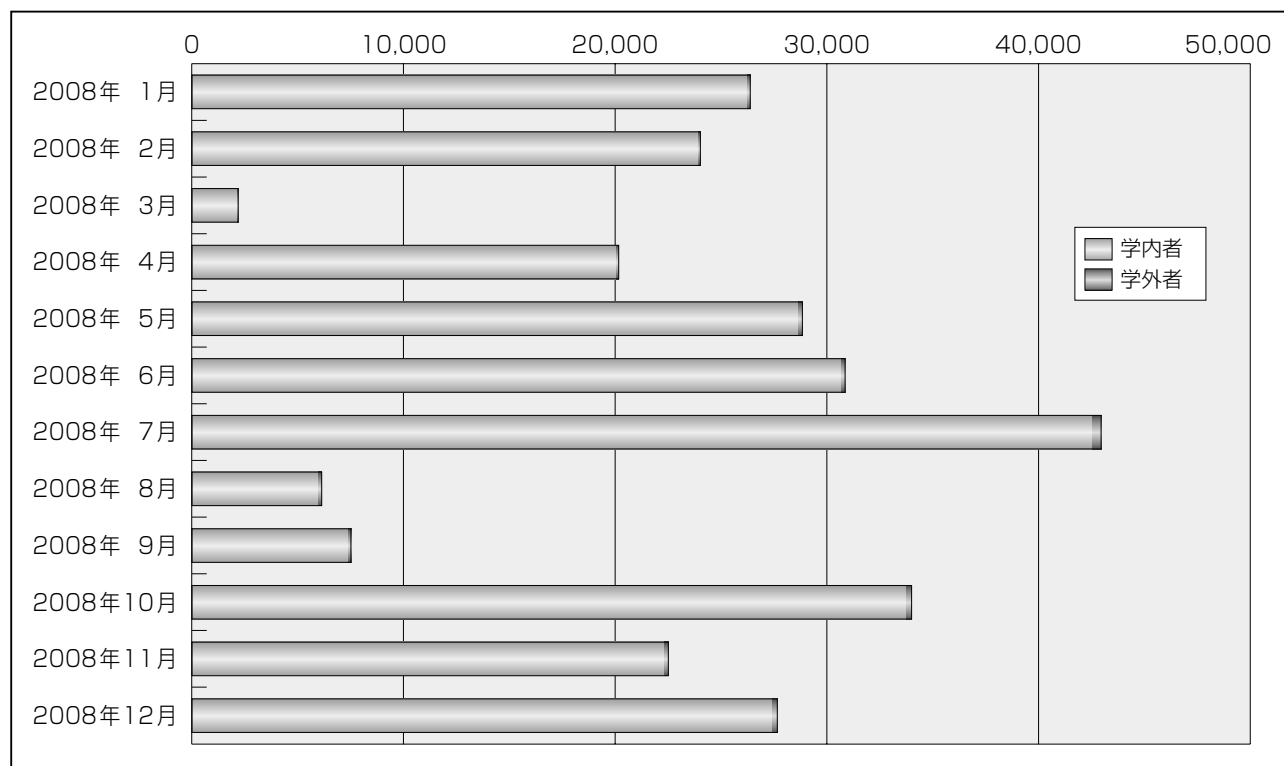
	2008年7月	2008年8月	2008年9月	2008年10月	2008年11月	2008年12月
学 部 学 生	7,137	1,510	1,406	4,130	3,212	4,635
その他の学部所属生※1	548	126	111	384	304	417
大 学 院 生	1,653	621	484	1,593	1,323	1,475
その他の大学院所属生※2	147	49	39	112	73	140
教 職 員	650	308	476	721	517	623
合 計	10,135	2,614	2,516	6,940	5,429	7,290

※1 学部研究生や科目等履修生を含む

※2 大学院研究生や大学院特別聴講生を含む



## 月別入館者数



### ■月別入館者数

[期間：2008年1月～2008年12月]

	2008年 1月	2008年 2月	2008年 3月	2008年 4月	2008年 5月	2008年 6月
学 内 者	26,203	23,914	2,107	20,023	28,639	30,641
学 外 者	198	130	98	163	226	241
合 計	26,401	24,044	2,205	20,186	28,865	30,882

	2008年 7月	2008年 8月	2008年 9月	2008年10月	2008年11月	2008年12月
学 内 者	42,519	5,926	7,364	33,720	22,296	27,375
学 外 者	448	225	167	293	228	296
合 計	42,967	6,151	7,531	34,013	22,524	27,671

## 東京外国語大学学術成果コレクション登録件数・利用状況

東京外国語大学学術成果コレクション（Prometheus-Academic Collections）とは、東京外国語大学の研究・教育成果および史資料を収集し、広く一般へ公開することを目的とした機関リポジトリです。インターネットを介して、学術論文や史資料本文を閲覧することができます。（2008年3月正式公開）

### ■コレクション別のアイテム・アクセス・ダウンロード数

[期間：2008年1月～12月 ※アイテム数：2008年12月31日現在]

コレクション	アイテム数	アクセス数	ダウンロード数
研究成果※1	1,542	48,918	39,588
博 士 論 文	62	8,158	32,631
C-DATS※2	24,872	91,838	13,228
附属図書館※3	2,933	21,005	1,847
合 計	29,409	169,919	87,294

※1 本学紀要論文を収録（「アジア・アフリカ言語文化研究所」、「留学生日本語教育センター」発行分も含む）

※2 21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」により収集された史資料および刊行物を収録

※3 図書館報および「南アジア史資料デジタル・アーカイブズ（SARDA）」等を収録

★詳細は、<http://repository.tufts.ac.jp/doc/index.html>をご覧ください。

## 図書館活動日誌 (平成20年4月～平成21年3月)

- 4月 1日……「JapanKnowledge」、「日国オンライン」の利用開始  
4月 9日……入学式(館報「カスターリア」等配布)  
4月11日……全ロシア国立外国文献図書館長来訪  
4月14日……図書館オリエンテーション(全5回 ～4月18日)  
4月18日……国立大学図書館協会東京地区協会総会2名参加(於 政策研究大学院大学)  
4月20日……日曜日開館開始  
4月21日……利用者ガイダンス(全4回 ～4月24日)  
5月 7日……大学院生へのILL利用促進支援事業開始  
5月 7日……府中市立図書館との相互貸借開始  
5月 8日……平成20年度情報リテラシー科目附属図書館担当分講義「附属図書館利用案内」(全4回 5月13日と計2日間)  
5月21日……NII目録システム講習会図書コース1名参加(於 国立情報学研究所 ～5月23日)  
6月 4日……平成20年度第1回図書館委員会  
6月 4日……平成20年度ILLシステム講習会1名参加(於 国立情報学研究所)  
6月 5日……平成20年度情報リテラシー科目附属図書館担当分「情報検索演習」(6月10日の計2日間)  
6月16日……情報検索ガイダンス(全9回 ～6月27日)  
6月26日……第55回国立大学図書館協会総会2名参加(於 仙台市)  
7月 2日……平成20年度第1回選書委員会  
7月10日……平成20年度第2回「東南アジア逐次刊行物プロジェクト」2名参加(於 北海道大学東京オフィス)  
8月20日……韓国外国語大学校副学長、中東欧学部一行来訪  
8月27日……タイ教育省職員一行26名来訪  
8月27日……平成20年度学術ポータル担当者研修1名参加(於 国立情報学研究所 ～29日)  
9月 1日……「アジア経済研究所出版物アーカイブ」の利用開始  
9月10日……平成20年度図書館等職員著作権実務講習会1名参加(於 東京大学 ～12日)  
9月24日……NII目録システム講習会雑誌コース1名参加(於 国立情報学研究所 ～26日)  
10月 8日……Middlebury 大学副学長来訪  
10月 9日……図書館オリエンテーション(10月10日と計2日間)  
10月14日……情報検索ガイダンス(全11回 ～10月28日)  
10月15日……平成20年度第2回選書委員会  
11月17日……平成20年度附属図書館貴重書展示会(『南アジア研究の足跡 ―本学におけるウルドゥー語・ヒンディー語教育の100年―』展示会)(～12月14日)  
11月26日 平成20年度第2回図書館委員会  
12月 4日 平成20年度附属図書館講演会(伊井春樹氏『源氏物語、若紫かいま見場面の変容』)  
12月13日 図書館Webサイト リニューアル  
12月17日 平成20年度第3回選書委員会  
2月18日 平成20年度第4回選書委員会  
3月18日 平成20年度第3回図書館委員会

## 編 集 後 記

- 本学図書館に就職して1年半が経とうとしています。その間、オンラインサービスなどの環境が整備され、ますます資料が利用しやすくなりました。みなさまもこの環境を目一杯活かし、図書館を「使い倒して」ください。(村上)
- 本学にも出版会が発足しました。話を聞くようになって約1年ですが、ここに来て記念小冊子の刊行のような当初は想像もなかった様々な仕事が出てくるようになりました。勤めている間にこのような機会に遭遇するとは思ってもみなかったもので、楽しみにしています。(吉田)
- ご自宅でも、オンラインで図書館サービスを利用できるようになりましたが、実際に図書館へ来館もしてみてください。先生や友達にお会いしたり、よい本を見つけたり、思いがけない出会いがあるかもしれませんよ。(木村)
- 学生時代は、難解な図書をグループで討議しながら読み込んでいくことが必要だと思います。図書館はそんな皆さんを職員・資料・施設の面で応援します。図書館をご利用ください。(大澤)

## Castalia : 東京外国語大学附属図書館報 第16号

2009年3月31日発行

発 行 : 東京外国語大学附属図書館 〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

電 話 : 042-330-5193 ホームページ : <http://www.tufs.ac.jp/common/library/index-j.html>

印 刷 : 三鈴印刷株式会社